

早くも令和8年となりました。

会員の皆様、令和7年が終わり、8年となりました。新年明けましておめでとうございます。

皆様方の様々のご協力やご支援によりまして、私達の活動が継続され、舞鶴市、綾部市の小・中学校で外国籍児童・生徒への学習支援や生活支援に大きな力を発揮させていただいております。また、両市で働いている外国籍技能実習生に対しても、日本語学習支援を行っています。

今回もこれらの報告をさせていただきます。

## 1. 舞鶴市での外国籍児童・生徒への学習支援

夏休みまでは、昨年度に引き続きベトナム籍児童2年生A君と3年生B子さん、そして、新たに新1年生のフィリピン籍C子さん（1年目）の3名への学習支援を、各学校で毎週2日～3日（1日2時間）、国語、算数を中心に別室で行ってきています。

### A男君（2年・ベトナム籍）

転校してきて1年目は日本の学校での生活や友達関係作りに慣れていない面もあり、クラスの友達との間でトラブルを起こしたり学習に集中できなかつたりする課題がありました。しかし、先生方とも連携して別室で日本語や教科学習指導・支援をしながら、友達との関係づくりのあり方や学習の仕方についても話して聞かせ、A男君の気持ちも聞き取りながら相談にも乗ってきました。国語の漢字学習や算数の計算問題ができた時には評価しながら進めていく中で、2年目の2学期に入り友達とのトラブルも少なくなり学習への集中度も高まり、指導・支援する側の話もよく受け止めるように大きく変わってきて、友達とも比較的うまくいくようになってきています。

### B子さん（3年・ベトナム籍）

2年目に入り、残り4ヶ月程で2年間の指導・支援は終わります。Bさんは両親共に外国籍のため、家庭では母国語での会話、学校では日本語でのコミュニケーションと、本当に大変な状況で毎日を過ごしてきています。初めて指導・支援に入った時には、正しい日本語が使えず、大人が使うような乱暴な日本語でしか会話が成立しませんでした。学校生活のリズムや約束事に馴染めず、裸足で歩いていたり、教室では先生方の指示に従って学習を進めることもできず、自分の好きなことしかできない課題を抱えていました。

私達との学習教室でも、同じような態度や傾向が強く見られました。寒い冬でも教室から裸足で来ることが多く、靴を履いていてもきちんと履けず、担任の先生方と連携して進めようとしている学習内容も受け入れようとせず、自分のやりたいことを強く求めてくる日々が当初は続きました。しかし、担任の先生方たちと連携して1年間粘り強く指導・支援し、いろんな話をしながら今年2年目に入った中で、学習に対する態度が変化し始めました。そして、2学期に

なると目を見張るほど学習態度も意欲も前向きになりました。

靴もしっかり履けるようになり、私達に対しても正しい日本語、時にはきちんと敬語を使って、自分の気持ちを表そうとするほどに成長してきました。先生方と連携しながら別室での個別的指導・支援の中で、B子さんが理解できなかった日本語や苦手な算数も理解でき始め力もついてきて、学習内容に対する自信がついてきたことが大きな要因でもあります。最初は「九九」が覚えられず、算数に取り組もうとしないときがありました。文章問題も理解できず、読もうともしませんでした。しかし、1対1の個別指導・支援の中で繰り返し指導する中で、「九九」も確実に覚えられ苦手な時計の読み方や分数計算も理解できるようになり、そのことを褒めると次第に算数が好きになってきました。そしてクラスで行われるテスト結果もよくなってきました。

国語の漢字も書き順も正しくないことが多く、指摘して直させようとしても受けつけない時期がありました。私達3名の会員が毎週指導・支援を繰り返す中で、2年目の2学期になり、目を見張るような成長を遂げてきています。

外国籍の児童・生徒の中には、日本の学校で、学習や生活のリズム、約束事、友達との交わり方、先生とのかかわり方が理解できず、受け入れるのに相当の時間を要する児童・生徒がいます。このB子さんの2年間の指導・支援の中でも、そのような時間が必要であることを痛感し、あらためて私達も学んでいます。日本語の理解できない生徒たちに学年に応じた学習を理解させ、将来の進むべき道を保証するためには、日本語だけでなく、教科学習支援や学校生活への個別的支援・指導の必要性も強く感じています。この指導・支援が特に当初になされないと、外国籍生徒が学習についていけない最大の要因となり、不登校や時には犯罪につながる要因となっています。



いま、私達がこのような取り組みができるのも、会員さんのみなさんの様々な支援や協力があつてのことと思っています。

### C子さん（1年・フィリピン籍）

両親が外国籍（フィリピン籍）なので家庭では母国語で話していて、学校での学習や生活を通してのみ日本語の学習やコミュニケーションとなっています。そのため、1年生の国語に出てくる簡単な漢字やそれを使った文の意味は、ほとんど理解できませんでした。

例えば、「空」の漢字学習の時、「空にうかぶくも」という文がでてきます。この文の「空にうかぶ」の意味は全く分かりませんでした。「くも」も理解できませんでした。翻訳機「ポケット」を使って、このような漢字やその漢字を使った短い文を、母国語の「タガログ語」に変換して聞かせると、すぐに「分かりました」と笑顔で答えます。もちろん、まだ「母国語」は読めません。

算数もなかなか理解ができませんでした。しかし、担任の先生と連携し、別室でいろんな教材を使いながら教えていくと、少しずつ理解し始めました。クラスより少し先を予習させておくことにより、教室での同じページの学習も理解が進み始め、今頃では、テストを受けても大変良い点が取れ出したと、担任の先生から報告を受けるようになりました。本人は明るく、いつも礼儀正しく楽しそうに参加してきています。

9月より、舞鶴市に新たにベトナム籍児童（5年生）と中学生（2年生）が転入してきました。全く日本語が理解できないので、その支援を依頼され、新たに4名の会員が指導・支援に当たっています。小学校5年生児童は日本語学習支援と共に国語や算数の学習支援を会員2名の指導・支援を受けて、明るく前向きに学習しています。家庭ではインターネットを使って自分でも自主的に日本語や国語の学習をしているそうです。

もう一人は中学2年生の女子です。物静かな生徒ですが、別室で一生懸命取り組もうとします。ただ、日本語がほとんど読めず、書けず、理解できないので、これからの支援・指導を先生方と協力しながら行っていきます。来年1年で中学校を卒業して、進路選択が待っています。

## 2. 綾部市での学習支援・指導

D子さん（ベトナム籍、3年生）

5年前に来日し綾部市内の金属加工工場で働いている父の下に、昨年10月母親と共に来日しました。市内の大きな小学校に転入し、すぐに綾部市教委を通し、私達の団体に日本語や教科学習支援の依頼がありました。保護者・本人との面談でその支援・指導の意思を確認の上、10月末より指導・支援に週2日間、計4時間の支援に入りました。大変学習意欲の高い児童で、別教室での私達との学習でも、よく理解します。日本語も当初はほとんど理解できず、翻訳機を使ってベトナム語での指導・支援で、ひらかな、カタカナから始めました。合わせて算数のかけ算、少数・分数の学習も教えますが、よく理解できます。順次、日本語の会話も教えていきます。「次の日本語を言ってみましょう」とベトナム語で言った後、「お早うございます」、学習の終わった後の挨拶は、「先生、ありがとうございました」、学習中にわからないときには、「先生、わかりません」、分かった時には「分かりました」、これらを繰り返し言わせる練習をします。

すると毎回の学習で使いますので、次第に自然に言えるようになります。こうして、D子さんとの会話がベトナム語から日本語へ進んできています。そして、大人への日本語学習支援と基本的に異なるのは、児童・生徒への指導・支援は学校で学習している教科学習を理解し、将来の進路保証（高校・大学や職業の獲得）へつながるための学習指導・支援であるということです。また、クラブ活動やいろんな学校行事にうまく仲間たちと参加していくための、あるいはトラブルが起きた時に解決するための力を付ける指導・支援でもあります。

大人への日本語支援は外国籍市民が日本の社会や会社の中で生活していくためのコミュニケーションとしての日本語や「読み・書き、話す」力の指導・支援であります。この点が全く異なります。

学校へ来ている生徒たちは外国籍児童・生徒を含めて、教科学習のために来ているのであり、また、将来社会人としてのいろんな力を培うための力を付けるために来ているのです。ここを間違えて日本語の学習・支援のみを行ってはいけなくなり、やがては不登校の大きな原因となります。事実なっています。高校での日本の生徒の退学率に比較して、外国籍生徒の退学率は7倍から8倍という事実がそれを物語ってい

ます。

D子さんが来日してわずか2ヶ月少しですが、私達の個別指導・支援と学校の先生方との連携した取り組みで、着実に学習にもついていけています。

4月から行ってきた4名の小・中学生に加えて、新たに10月よりベトナム籍の3年生の児童が綾部市の小学校に転入してきました。その日本語、教科学習支援・指導の依頼が綾部市からあり、10月より始めています。日本語は全く読めず、書けず、話せない3年生児童ですが、素直で学習に対しても意欲のある児童です。「ひらかな、カタカナ」の学習と共に「算数」の3年生で学習している内容を教えても、頑張っ理解しようとしています。ベトナム語で「分からないときには、次に先生が言う日本語を言いなさい」と説明して、その後、「先生、わかりません」と、日本語を繰り返させると、ゆっくりではあるけれど「せんせい、わかりません」と使います。同じように「わかりました」、「せんせい、できました」、「ありがとうございました」と、教室や学校で使う簡単な日常会話の基本を教えていくと、その言葉を使って、私達や教室での先生たちとの会話が成立し始めます。11月頃はベトナム語での会話、指導でしたが、2ヶ月ほどたった今では少しずつ日本語での会話が成立し始めて、支援する側もできるだけ、日本語で説明していますが、教科学習で出てくる専門用語や説明は当面はベトナム語での説明や会話が大切です。彼女もタブレットを使って、ベトナム語から日本語に変換して、質問してることが多々あります。でも、算数の大好きな児童で、よくできます。

今まで支援しているボリビア籍の児童もフィリピン籍の中学生の姉妹、中国籍の中学生も順調に学習は進み、基本的に日本語での学習支援を行っています。

### 綾部市内中学校での3名との生徒の学習支援

2年目に入ったフィリピン籍生徒（2年・3年姉妹）

今では、日常会話はほとんど支障なく日本語で行えています。3年生の姉の方は、いよいよ、この4月に卒業し、高校へ進学する予定で、頑張っています。



(中学生の国語、数学を教えているところです)

### 3. 聖母訪問会での学習支援・指導

毎週、5名の中学生・高校生への学習支援・指導を9時半より12時までに行っています。4名の支援員（会員）がそれぞれ一人について、国語や数学、英語、音楽等、本人たちが希望する教科学習への指導を行っています。

小学校3年生（ボリビア籍）児童への支援



### 4. 外国籍生徒たちの日本文化体験（生け花と茶道）

12月29日に谷口信子理事の自宅で、学習支援を受けている3名の外国籍生徒たちの日本文化体験教室を開催しました。日本の歴史的文化である華道（生け花）や茶道（お茶）は、日本に来る外国人や外国に住む人たちの間で大変興味を持たれ、日本文化の人気となっています。そこで、正月を前にして「お正月用の生け花」と「日本茶のたて



方と飲み方」の基本について、谷口さんの手ほどきの下に体験学習をしました。

初めての経験でしたが、生徒たちは楽しそうに生け花に取り組み、その後、お茶のたて方を見て体験し、お茶の飲み方を教えてもらいながら楽しくお菓子を頂きました。実際にこのような体験をすることがなかなかなく、学校の教材の中に出てきてもイメージがわきにくい日本文化が、実際体験する中で豊かに理解できて本当に良かったです。



（作った生け花です）

谷口理事さんにはお世話になりました。

また、次の日本文化の学習も行いたいと思います。

## 5. 英会話です

2つの英会話教室、毎月4回ずつですが、その内どちらの教室にも中丹管内で布教活動をしている「末日聖徒イエス・キリスト教会」の宣教師2人が2回ずつ参加してくれて、楽しく生の英語を聞かせてくれて、生徒さんたちと英語での会話を盛り上げてくれています。時にはこの写真のように4名の宣教師(Elder)が来てくれる時もあります。



宣教師たちが参加してくれた時には、いくつかのペアを組んで、日常会話に取り組んだり、テキストブック(SIDE by SIDE Book2, Extra Book)を彼らにできるだけ日常の会話に近いスピードで読んでもらったりして聞き取る練習をしています。その natural な Native English を聞くことによって、自然な英語はどこで単語がつながったり、どこの言葉が聞こえなく減退したりするのかがよくわかります。また、一緒に練習問題を英語で話し合っって考えます。彼らは10代後半の高校卒業くらいから20代前半の青年で、教室で話し合っていると、普段に接する宣教師というイメージとは本当に違って、若い日本の青年以上に明るい活発な気さくな青年だなとつくづく思います。

彼らが参加してくれると、クラスの雰囲気も変わり、一層楽しく活発な教室になります。私達と宗教は異なりますが、あの若さで、十分には言葉の分からない日本や外国に来て、自分たちの信じる宣教師としての活動に2年、3年と参加する熱意には深く感じるものがあります。

## 6. 聖母訪問会学習室の掃除と周辺の草刈り

昨年夏にも清掃と草刈りを行いました。この時期は雑草の成長も早く、協会の入り口から教室までの道もすっかり草が茂り、歩きにくくなっていましたので、会員の皆様に協力を依頼し、10月11日(土)9時より実施しました。忙しい時期でしたが、多数の会員の皆様や学習に参加している生徒たちやその保護者さんたちも参加していただき、1時間ほどで、学習教室もきれいになり、周辺の雑草もすっかり刈り取ることができました。ありがとうございました。



また、生徒たちを毎週土曜日の学習に送り迎えしていただいている井木さんには、会社より大型の廃棄物回収のトラックを持参いただき、全て回収していただきました。さらには、学習教室に入る入り口の門をロックする棒の調子が悪く、私達も協会の神父さんたちも開け閉めに苦労していたのですが、これも井木さんが過熱したうで調整し直してくださり、今ではすんなりと開け閉めができるようになっています。色々ご尽力いただき、ありがとうございました。



## 7. 新たな出発。田中聖進哉君は大学へ！聖莉奈さんは看護師に！

7年前にフィリピンより来日し、聖母訪問会前の両親の家庭で生活を始めたのが、この姉弟でした。そして二人の来日と支援を機に、年々増加していく外国籍児童・生徒への日本語や教科学習支援を充実するために、京都北部国際支援ネットという新たな団体を令和元年の秋に設立し、私達は取り組みを一層充実することになったのです。弟の聖進哉君は先日、関西外国語大学の英米語学科に合格したのでその報告に行きたいと、姉の聖莉奈さんと一緒に1月17日（土）、毎週行っている聖母訪問会の学習教室に久しぶりに来てくれました。彼は、中学校卒業後にバスケットボールを続けたいと福知山の共栄高校に入学し、毎朝5時に起床し、6時前に西舞鶴駅から列車に乗り、福知山で降り、近くの共栄高校に登校し、早朝クラブに参加して3年間過ごしてきました。列車の都合で遅刻したことはあっても、自分の都合で遅刻をしたことは一度もないという素晴らしい話でした。それを支えられたご両親の努力も大変なもので、「両親には本当に感謝している」と、何度も言っていました。話していてもしつかりとした態度で、立派な大人になったなど強く感じました。すでに大学近くのマンションも決まり、大学で英語を学習した後は、その英語を使った仕事に就きたいと将来の夢を語ってくれました。

姉の聖莉奈さんも来日後、1年間私達の支援と共に自分でも日本語の学習を毎日続け、1年後に日星高校に入学しました。その後も日々努力を続け、優秀な成績で卒業と共に舞鶴医療センター看護学校に入学し、この春に卒業します。2月には看護師になるための国家試験を受け、医療センターで働くことに決めていると話してくれました。



本人の努力、ご両親の日々の支援、そして「舞鶴市の日本語・学習支援委託事業」により、義務教育の間は私達の団体から毎週支援員が学校に行き、日本語や教科学習の支援を行ってきました。また、中学校を卒業後も、聖母訪問会がすぐ近くなので土曜日を含め、下校後に訪問会で学習支援を受けてきました。



このようにいろいろな支援を受ける中で、本人たちの努力の下、素晴らしい進路保障が実現しました。「心からおめでとう、よく努力したね」と労うとともに、今後更に学習し、医療現場では患者さんや周りのスタッフから信頼される看護師さんを目指してほしいです。また、この学習教室を長年にわたり、無料で貸してくださっている聖母訪問会の皆さんに 嬉しいこの報告と共に感謝申し上げます。

このような素晴らしい報告ができるのも、直接、間接的に協力をいただいております会員の皆様方のご支援のおかげだと感謝申し上げます。外国籍児童・生徒や技術研修生が来日しても、日本の学校や職場、地域でうまく対応できるとは限りません。近年、外国籍市民や労働者へのいろいろな対応をめぐり、政党や国の施策の中で様々な意見が出され、時としては憂慮するような考えや対応が指摘されていることもご存じの通りです。

私達は、良い方向で外国籍市民との交流を進め、互いに文化の違いを理解し合いながら、時として起きる誤解や課題には、互いに排除し合うのではなく、協力し合いながら解決していきたいと願っています。特に学校で日本の生徒と共に教科学習していくためには、その指導・支援なくしては到底理解できないし、ついていくことができません。中でも、初期の支援・指導が必要です。

今回の二人の素晴らしい進路保障は、その支援・指導の結果でもあります。聖進哉君が入学する大学の学科は2年前に入学したアリーナさんと同じで、既に彼女とも連絡を取って色々と相談をしているとのことです。

.....